

相馬市立中村第一中学校だより



# 螢雪の功

令和7年2月28日発行

文責 高瀬 永志



今日は少し暖かい朝でした。冬の寒さが厳しければ厳しいほど、春の訪れの喜びは大きくなるものです。先週の金曜日の授業参観、学年PTA例会ではお世話になりました。今年度最後の授業参観はいかがでしたでしょうか。明日から3月になります。卒業や修了まで「あと何日」というカウントダウンカレンダーがあちらこちらのクラスで掲げられています。今のクラスでの生活を惜しみながらも、次のクラスへの期待や希望なども抱き始めているようです。その一方で、変化に対する心配や不安で落ち着かなくなることもあるかもしれません。そういう意味で3月もお子さんの心の揺れを注意して見逃さないように支援していきたいです。そして、3年生はいよいよ県立高校入試という天王山を迎えます。ここまで来たら、あれこれ考えずに、今まで学習してきたことを信じて入試会場の門をくぐるのみです。親のほうが緊張するかもしれません、お子さんを信じて余裕の笑顔で送り出してください。健康管理と当日の持ち物や交通手段の確認と準備だけは入念に行わせてください。先生方みんなで、一中の受験生全員の合格を祈っています。

## 心を込めた卒業式に



卒業式の全体練習を行いました。卒業式は儀式的行事です。ただ形を整えればよいのではなく、心を込めて執り行いたいものです。そこで全校生に卒業式について二つお話しました。一つは、人生の節目をはっきりと意識させるということ。中学校生活はここで終わり、もう後戻りはできません。式を通して、しっかりとそのことを自覚させ、迷いなく次の生活へ力強く踏み出してほしいという願いを込めます。もう一つは、式は感情をみんなで共有するものであるということ。卒業生には様々な感情があります。友達との別れの寂しさ、3年間の思い出の懐かしさ、新しい生活への期待と不安、そして成長できた喜び、そして、親や先生方への感謝の気持ち。そんな感情一つ一つを思いやりながら、みんなで式を作っていくことを伝えました。最高の卒業式になるよう今から全校で準備をしていきます。

## 貴重な体験をお寄せいただきました

先日皆様にお願いしました「東日本大震災の時のお話」を家庭でして、それをお子さんが作文にして多数提出していただきました。防災、そして命の大切さを教える観点から、当時の話を風化させることなく、子ども達に伝えたいという想いがあります。昨年よりもたくさんの作文をいただきました。中には、深い哀惜や歎喚の体験、思い出すこともさぞ辛い出来事も綴られていました。それでも伝える価値があるものであり、その経験を広く後世に伝えたいという想いをもっておられると感じられます。3月の追悼式では、中学校の防災教育の集大成として、災害から身を守る決意と、命を決して粗末にしてはいけないという教えを子ども達の心に刻みたいです。この作文のためにご家庭でお話をしていただいた皆様、ありがとうございました。

### 来週の予定

3月 5日 (水) 福島県立高等学校前期・連携型選抜

実力テスト(1, 2年) ノーベル活データ

6日 (木) 福島県立高等学校前期・連携型選抜

7日 (金) 3年教室ワックスがけ (放課後) 3年のみ弁当の日

※5、6日は、3年生の県立受験者以外は午前中授業・昼食なしで5日 12:30 6日 12:10 放課



